

<レポート 2> 想像以上に私たちの身近なところに関する業務を行っていることを知った

## 1. はじめに

2023 年 8 月 23 日, 9 月 14 日の 2 日間, 総務省東海総合通信局のインターンシップに参加した。私が本インターンシップに参加した目的は, 将来の選択肢として考えている公務員の仕事を体験することで社会人として働くイメージを掴むと共に, これまでなじみのなかった通信局の業務内容や職場の雰囲気を知ることである。

## 2. インターンシップ先の概要

インターンシップ先の総務省東海総合通信局について説明をする。総務省では, 国の基本的な行政制度の管理・運営, 地方自治や消防・救急行政, 情報通信技術を活用した成長戦略の実現に向けた施策を行っている。東海総合通信局は, 総務省の地方支分部局で全国に 11 の地域毎に設置されている総合通信局のひとつであり, 管轄区域は岐阜県, 静岡県, 愛知県及び三重県である。総務部, 情報通信部, 放送部, 無線通信部, 電波監理部の 5 部体制で, 地域の情報化の推進、無線局の許認可等の電波の監理監督、電波の監視及び電気通信事業の登録等、地域における高度情報社会の構築に向けた施策を総合的に推進する機関である。

### 3-1. インターンシップ内容

8 月 23 日

- ・ 航空海上・陸上関係の無線局許可と検査に関する説明
- ・ 無線機の通信操作と簡易測定の実験
- ・ 電波監理に関する説明
- ・ 電波監視システム DEURAS とスペクトラムアナライザの操作体験
- ・ 電波探査の実験と屋上アンテナ見学

9 月 14 日

- ・ 地域情報化の取り組みに関する説明
- ・ 地方自治体の取り組みについて調査
- ・ 瀬戸市役所の情報政策課を訪問 (地域情報化に関する意見交換や, 通信局の施策説明を行う会議に参加)

### 3-2. 印象に残った内容, 感想

無線局については混信を防ぐために多くのルールが定められているということを知った

が、特にスマートフォンも 1 台 1 台が無線局であるという話が印象的だった。本来は無線局の使用に免許が必要であるが、技術基準適合証明を取得したスマートフォンであれば、電気通信事業者が免許申請を事前に済ませておくことによって、利用者が運用することが出来るということを知った。普段何気なく使用している機器でも、電波を使用する1つの無線局となるのだということに気が付いた。このような認識がもっと広がれば、他の無線局の開設に関する知識も広まるのではないかと感じ、スマートフォンという身近な道具から、無線局という馴染みの薄い概念に対する正しい理解へつなげることが出来るのではないかと考えた。電波監理について学ぶ中でも、無線設備に対する理解が特定のユーザーに限らずより多くの人に広がると良いということを強く感じた。ルールを知らずに無線局を開局してしまっている人もいるという話の中で、啓発活動として駅や電車広告も活用しているということを知ったが、正直私はこれまでその広告をしっかりと見た記憶がなかった。誰もが当事者になり得ることだという認識を広めるにはどうしたら良いのかを考える必要があると思った。

DEURAS の操作体験では、組み合わせを考えながらいくつかのセンサ局から情報を得て、電波の発信源を特定していく過程が興味深かった。電波探査の体験では、部屋の中にある電波発信源の中から指定されたものを一人ずつ探すという課題に取り組んだ。今回の体験では止まっている発信源を探したが、なんとなく方向の検討がついても特定に至るまでに苦勞をした。しかし実際は動いていることが多いと聞いてすぐ見失ってしまいそうだと感じ、特定の難しさを痛感した。

地方自治体の地域情報化については、訪問先の自治体が想像以上に幅広い取り組みを行っていたので驚いた。特に印象的だったのはインターネット上の仮想空間に市内の街並みを再現した取り組みである。私は初めて知ったが、若い世代の人たちにもっと興味を持ってもらい、地域の少子高齢化の対策や地域の活性化に繋げていけたら良いだろうと考えた。市役所の方も言及されていたが、地域を離れた人達がこの仮想空間上での街並みを見ることによって地元を懐かしく思い、また戻ってくる機会になったら素敵だと思った。このようにバーチャルからリアルにつなげる取り組みは、この時代にあった地域活性化の方法であるだろう。他にも公式 LINE アカウントの運用や、デジタルディバイド対策として高齢者向けの講座の推進など、住民の方が住みやすい町として進化し続けているという印象を受けた。私は話すことが得意ではなく、とても緊張したが、会議中にメモを取りながら自分の気になった部分の内容について質問することができたので、自分の成長にも繋がった。

#### 4. インターンシップを通じて得たこと

私はこれまで通信局が何をやっている所なのか知らなかったが、2日を通して想像以上に私たちの身近なところに関する業務を行っているということがよく分かり、業務内容を理解するという目的は達成できたと思う。今まで触れたことのない分野の話で難しく感じる部分も多かったが、初めて耳にする内容にたくさん刺激を受けた。また、社会人として働

くイメージを掴むという目的については、2日間たくさんの職員の方と交流する機会があったことや、実際の会議に同席させていただいたことによって大まかには達成できたと感じている。特に会議では最初に名刺交換があり、そういった場を見るのも初めてだったため、これから会議が始まるのだという気持ちで改めて身が引き締まった。また、職員の方とお話をする中で自分の目指す社会人の具体像が描けるようになったため、今後も試験に向けて頑張っていきたい。

一方で、自分のコミュニケーション能力の未熟さや積極性の欠如を改めて痛感した2日間でもあった。特に若手職員の方と交流する際や電波監視システム体験の際に周りから一歩出遅れる形となってしまうことがあったのが反省点である。

今回通信局のインターンシップに参加するにあたり、専門的な知識が必要かもしれない、と不安な気持ちもあったが、新しいことに挑戦してみたい思いもあり、応募を決めた。この2日間の経験によって新しい知識をたくさん身に付け、視野が広がったと実感しているため、今後も新しいことを恐れずに挑戦し、積極的に自分の意見を共有したり周りとのコミュニケーションをとることを意識して過ごしていきたい。

最後になりましたが、ご多忙の中貴重な機会を作ってください、ありがとうございました。

以上